

働くみんなの要求アンケート結果（2020年～2024年）の経年推移の特徴について

2024年3月14日

京都医療労働組合連合会

執行委員長 勝野 由起恵

京都医労連は、組合員の生活実感と賃金を中心とした要求を把握し、春闘要求の確立に活用するために、日本医労連の「働くみんなの要求アンケート」を毎年実施しています。

こうした中で、2020年から2024年にかけて、「働くみんなの要求アンケート」の結果の経年推移を分析し、特徴的な傾向を考察してみました。

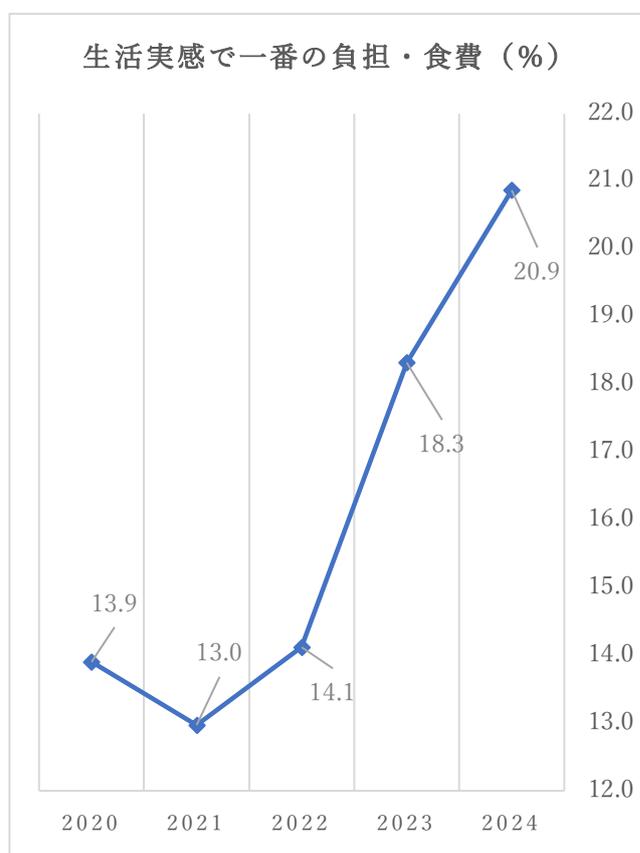
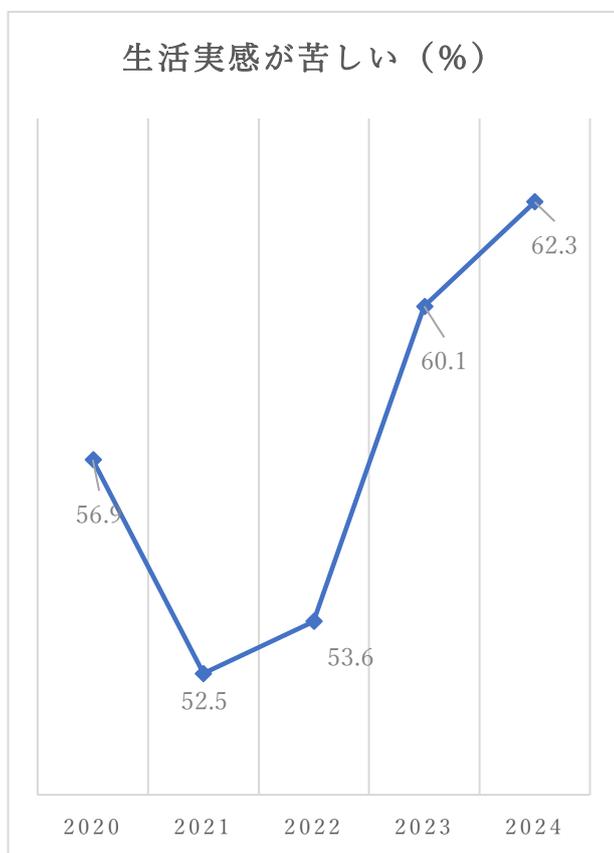
各年の集約数（人数・組合数）については右表の通りです。

年	集約数(人)	組合数(組合)
2024	2,645	13
2023	2,168	14
2022	2,245	14
2021	2,854	14
2020	3,016	19

1 物価高騰の影響で生活実感は苦しく、大幅賃上げは必要

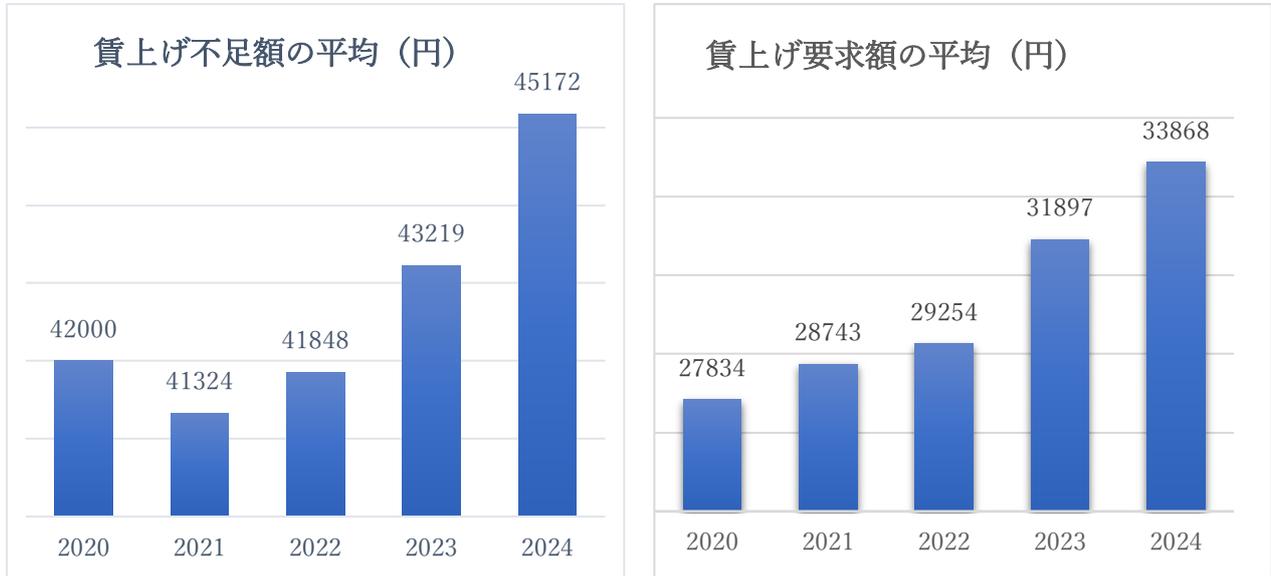
(1) 生活実感から「かなり苦しい」「やや苦しい」と答えた人は、物価上昇が始まった2023年から6割を超えています。

(2) とりわけ生活実感で負担となっている項目で「食費」が急上昇しています。この間の物価高騰の影響がうかがえます。2024年には20%を超えました。

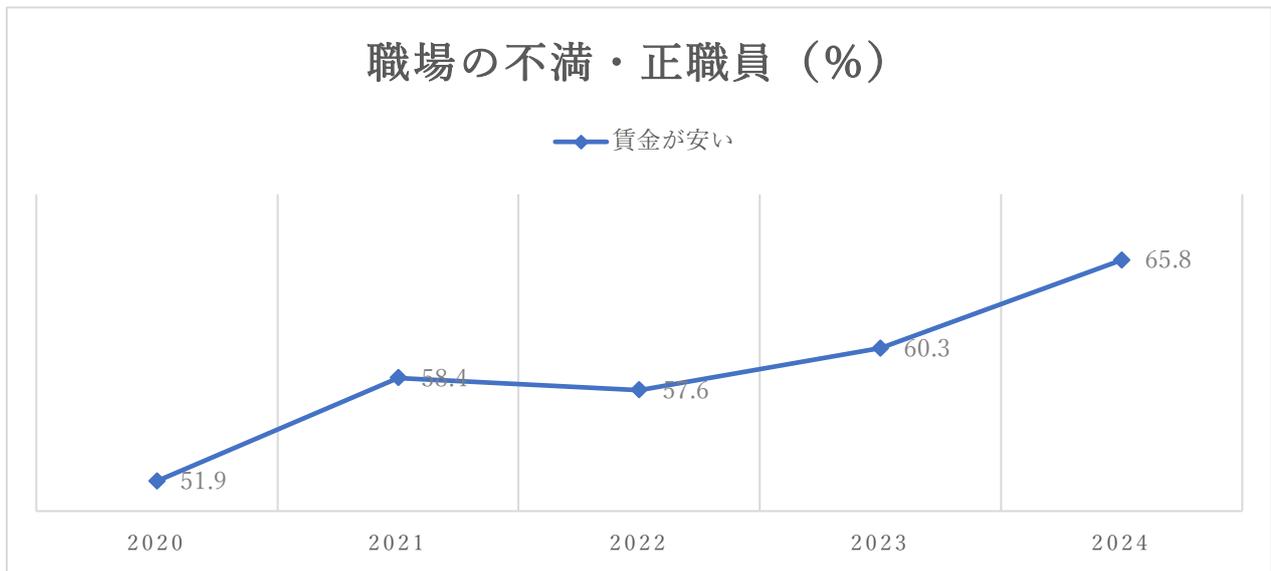


2 賃上げ不足額、要求額は上昇、「賃金がやすい」不満も上昇！

(1) こうした中で、賃上げ不足額や要求額の平均は上昇しています。不足額は2024年に45,000円を超え、要求額も33,000円を超え、大幅賃上げは、組合員の切実な最大の要求になっています。



(2) 職場の不満 (正職員) では、毎年「賃金が安い」が変わらずトップとなっています。さらにその比率が毎年上昇しています。



	2020	2021	2022	2023	2024
1位	賃金が安い 51.9%	賃金が安い 58.4%	賃金が安い 57.6%	賃金が安い 60.3%	賃金が安い 65.8%
2位	人員が少ない 38.9%	人員が少ない 39.7%	人員が少ない 39.0%	人員が少ない 43.8%	人員が少ない 43.0%
3位	一時金が少ない 30.3%	一時金が少ない 34.5%	一時金が少ない 32.9%	一時金が少ない 37.2%	一時金が少ない 32.0%

3 政府に対する要求は、「医療・介護・保育の充実」「最賃引き上げ」「消費税廃止引き下げ」が多く、景気・物価対策は急増

